

駒ヶ根市文化財

名称	石 祠
種別	民俗・芸能
所在地	東伊那栗林
説明	<p>栖林寺(せいりんじ)東裏の坂井家墓地にある石祠群である。石質は安山岩で、この近辺では通称籃塔(らんとう)または伽藍(がらん)塔と呼ばれているもので、現在 8 基あるが、かつては 10 基あったという。寺院の建物を模したところから名付けられたのかも知れないが、形式は五輪塔などを念頭に入れて設計したものであろう。基本的には、基壇・室部・屋根の三部分からなり、室部は空洞で木や紙の札を入れて本尊として祀ったり、五輪塔などを納めていた形跡がある。この石祠の中の一つにも、小さな五輪塔が納めてあった。屋根の部分は、その形によって、いろいろな造りに分類されている。</p> <p>石祠の製作年代であるが、一説には江戸時代初期以後、一定期間流行して造られ、やがて方形の墓石に移行していったものという。坂井家の石祠群は年代を追って建てられていったものと思われるが、その一つに慶安 3 年(1650)の年号が刻んである。</p> <p>なお、この近辺で見られる石祠のほとんどは、室部正面にいろいろな形をした透間(窓)が作られている。その形が何を表わしているのか、今後の調査を待ちたい。</p> <p>このような形をもつ石祠は、市内でも、あちこちの古い墓地で見うけることができるが、このように大量に群をなしているものは珍しい。この外には光前寺裏の墓地内にある「上穂(うわぶ)十一騎の墓」と称せられている、11 基の石祠群も見事である。この例でもわかるように、この近辺にある石祠は、墓石の代わり、ないしは供養塔としての性格が濃いといえよう。</p>



栖林寺東浦の坂井家(屋号北)墓地にある石祠群